

学校図書館 Take Off!

No.24



本号の目次

トピックス 子どもゆめ基金助成事業報告 1	
広瀬恒子さん講演会「子どもの本を読みましょう」	—————P. 2-3
トピックス 子どもゆめ基金助成事業報告 2	—————P. 4-5
代田みち子さん講演とワークショップ「代田さんと遊ぼう！」	
2018年度要望書への回答	—————P. 6
コラム:会員のつぶやき 本・子ども・学校図書館	—————P. 7
情報コーナー	—————P. 8

明るく素敵な学校図書館は
読書に調べ学習に最適です

学校司書さんが入ってからは、八王子のどの学校でも図書館が整備されてきました。ボランティアの方たちの努力もあります。国語の教科書では、図書ラベルや配架の意味、辞書や図鑑、百科事典の使い方、調べ学習のやり方など、基本的なことが詳しく記載されるようになり、先生のやり方ひとつで、学校図書館が大活躍できるようになってきました。その活用のためには、現場の先生たちに授業準備にかける時間をしっかりと確保してもらい、授業をする先生と学校司書さんのより綿密な相談も必要ですね。

また、学校図書館の蔵書を増やすことも大きな課題です。市の図書館から図書資料を借りることができて大変助かるのですが、手続きや配送、貸し出しの期間など、調整も難しいようです。

子供たちが自分から進んで調べ学習に取り組む姿は活き活きとしてとても素敵です。学校図書館がそんな子供たちでいつもいっぱいであるように願っています。
(宮本)

八王子に学校図書館を育てる会広報紙
二〇一九年七月一日発行 第一四〇号

ゆめ基金助成「子どもの本を読みましよう」

広瀬恒子さん講演(12月2日)

「2018年子どもの本をふりかえって」

2010年から毎年恒例となっている広瀬恒子さんの講演会「子どもの本を読みましよう」が開催されました。毎回、その一年間の出版状況や子どもたちを取り巻く社会の様子、子どもの本にかかわるトピックなど、幅広い話題で参加者を飽きさせません。(絵本)からNF、科学分野、写真絵本、日常的くらし、昔話、戦争と平和。(読み物)では低学年、中学年、高学年とYAと、ジャンルごとに解説をしてくださいました。特に、戦争と平和にかかわって紹介された本

『ガラスの梨——ちいちゃんの戦争』

『ある晴れた夏の朝』

『マンザナの風にのせて』

『ナチスに挑戦した少年たち』

『ヒトラーと暮らした少年』

は、大人である私たちがまず手に取り、子どもたちに平和で豊かな世界を手渡すために立ち止まって考える機会を与えてくれる本ばかりでした。

『ある晴れた夏の朝』

現代のアメリカの高校生たちが、「あの戦争は何だったのか」ディベートで考える。



『ヒトラーと暮らした少年』(右)

『ナチスに挑戦した少年たち』

(フィリップ・フーズ/金原瑞人訳/小学館) いずれもナチスドイツの時代の少年を描く。



『ガラスの梨

(ちいちゃんの戦争)』

著者、越水さんの母親をモデルに、戦争の時代を描く。



『マンザナの風にのせて』

第二次世界大戦時、日系人として強制収容所へ送られた家族の物語。

広瀬さん紹介の本 リスト

	No	タイトル	作者	出版社
絵本	1	出発 (から草もようが行く)	小泉のみ子/作・絵	新日本出版社
	2	どしゃぶり [講談社の創作絵本]	絵: はた こうしろう 文: お一なり 由子	講談社
	3	さとやまさん	文: 工藤 直子 写真: 今森 光彦	アリス館
	4	密林ーきれいなひょうの話	工藤 直子 え: 和田 誠	瑞雲舎
	5	巣箱のなかで	作: 鈴木 まもる	あかね書房
	6	ルラルさんのだいしごと [いとうひろしの本]	作: いとう ひろし	ポプラ社
	7	この計画はひみつです	文: ジョナ・ウィンター 絵: ジャネット・ウィンター 訳: さくま ゆみこ	鈴木出版
	8	すなのたね [講談社の翻訳絵本]	作: シビル・ドラクワ 訳: 石津 ちひろ	講談社
	9	そうべえときじむな一	作: 田島 征彦	童心社
	10	かんけり	作: 石川 えりこ	アリス館
	11	王さまとよごれた足	文: サリー・ボム・クレイトン 絵: ライアン・サンダーソン 訳: 青山 南	光村教育図書
	12	まなぶ	文・写真: 長倉 洋海	アリス館
読み物	13	世界一の三人きょうだい	作: ゲードルン・メプス 訳: はたさわ ゆうこ 絵: 山西 ゲンイチ	徳間書店
	14	ビワイチ! (自転車で琵琶湖一周) [文研じゅべにーる]	作: 横山 充男 画: よこやまようへい	文研出版
	15	リマ・トウジュ・リマ・トウジュ・トウジュ	著: こまつ あやこ	講談社
	16	ぼくはなんでもできるもん [本はともだち]	作: いとう みく 絵: 田中 六大	ポプラ社
	17	一〇五度	著: 佐藤 まどか	あすなる書房
	18	こんびら狗 [くもんの児童文学]	作: 今井 恭子 画: いぬんこ	くもん出版
	19	ガラスの梨 (ちいやんの戦争) [ノベルズ・エクスプレス]	作: 越水 利江子 絵: 牧野 千穂	ポプラ社
	20	ある晴れた夏の朝	著: 小手鞠 るい イラスト: タムラフキコ	信成社
	21	てんこうせいはワニだった! [こぐまのどんどんぶんこ]	作・絵: おのりえん	こぐま社
	22	ひきかえるにげんまん [本はともだち]	作: 最上一平 絵: 武田 美穂	ポプラ社
	23	泥	著: ルイス・サッカー 訳: 千葉 茂樹	小学館
	24	マンザナの風にのせて [文研じゅべにーる]	作: ロイス・セババーン 訳: 若林千鶴 絵: ひだか のり子	文研出版
	25	ヒトラーと暮らした少年	著: ジョン・ボイン 訳: 原田 勝	あすなる書房

19・20・24・25は2ページに書影があります。

『たのしい科学あそびと科学の本の魅力』

科学読み物研究家 代田みち子さんと遊ぼう

平成31年1月26日(土)

科学読み物研究家の代田みち子さんをお招きし、科学の楽しさを教えていただきました。当日の参加者は、小学生を中心とした子ども6名、保護者を含む大人が19名です。

会場に入ると、科学おもちゃの数々に引き付けられます。白黒のベンハムの独楽、木の実のケーキや標本箱、大きなダチョウの卵もあります。子どもたちは、グラスハープの鳴らし方を習って、澄んだ音を奏でています。紙コップとタコ糸、濡らした布でカエルの鳴き声を響かせるのに夢中な子もいます。

ワクワクの中、始まった講演会では、最初に科学絵本について話されました。意外にも日本ほどう



ぐれた科学絵本が数多くある国は無いそうで、世界一ではないか、とのこと。すぐれた科学絵本の存在を知るためには、数多く読むことが大切です。おはなし会や読み聞かせでの工夫については実際の体験をおして伺いました。『ふゆめがっしょうだん』（福音館書店）では、読んですぐにアジサイの枝を見て、顔に見える芽の部分に「本当だ！」とみんな笑顔になりました。『こんにちはあかぎつね』（借成社）では色相環と補色の関係から目のふしぎを検証しました。『どろぶつしりとりえほん』（岩崎書店）は、参加者とのやり取りが楽しく盛り上がりました。質の高い本選びがまず大切だけれど、知識を教えようとして読まないこと、一緒に楽しもうという姿勢で読むことで、聞き手に本の魅力がより伝わるというのを実感しました。また「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではな

い」というレイチェル・カーソンの言葉を引用し、本を読む間接体験と同時に自然に親しむ直接体験の重要性も話されました。

子どもの参加者も多かったことから、科学おもちゃの体験の時間が取られました。目の残像現象を利用したフィルムケースの独楽は、うまく回すと地球とその周りを回る月が浮かび上がります。細いアクリル筒の中



を転がるガラス玉を端から覗き込む装置では、手軽なワープ体験が驚きで、つい夢中になってしまいました。今森光彦さんの『切り絵昆虫館』（童心社）の型紙からはカミキリムシをリアルに再現できて感動しました。

た。摩擦と共鳴の実験では、紙コップ、タコ糸と濡らした布の小片で動物の鳴き声を表現しました。紙コップの大きさが音の高さが変わり、犬にもニワトリにもカエルにも聞こえます。最後は水性黒



インクに含まれる色をさがす実験です。白いチョークの端から5mm程のところに、黒の水性ペンでぐるり線を引き、水を張ったペットボトルのキャップの中に立てます。しばらくおくと、チョークが水を吸い上げる過程で、黒いインクの中にある黄色や緑、紫、などの色がチョークの側面に現れました。とても美しく、黒一色でなかったことがわかり、子どもたちも目を輝かせていました。

ノーベル物理学賞の朝永振一郎さんの言葉から「科学の芽、茎、花」のお話をされ、台所でお料理するのも科学です、と言われたことが本当にそうだと強く感じました。短時間ながら、なぜ？と楽しみながら理解する科学の楽しさおもしろさに魅了されました。日々の科学に注意を払い、科学絵本を読み続けていきたいと思えます。

(S)

(写真下…コップの大きさと糸の太さで音が違うかな？親子で比べっこしました。)



2018年度の要望書とその回答についての報告

本会発足以来、毎年教育長にお届けしております「学校図書館の充実を願う要望書」も、2018年度で16通目となりました。回答と合わせてご報告いたします。

要望1 「すべての小・中学校へ専門・専任・正規の学校司書を常駐」

回答 司書資格を有する「学校司書」を全市立小・中学校に週1回専任で配置しており、司書教諭や担当教諭の支援を行っています。それぞれの学校における課題も検証し、適正な配置を検討していきます。

要望2 「学校図書館を活用した授業と読書指導の充実のための支援」

回答 学校図書館の計画的な活用を促進するため、各学校で活用計画の作成や図書委員会活動の充実、読書環境整備を行うなど、読書活動の推進を図っていきます。また、学校図書館ボランティアの研修も継続して実施します。

要望3 「調べ学習等に十分耐える資料の充実」

回答 司書教諭と学校司書と連携をとりながら「学校図書館図書標準」に基づいた計画的な蔵書の整備・更新が行われるよう、学校と調整を図っていきます。

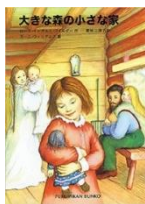
要望4 「学校図書館サポートセンターの体制強化」

回答 学校図書館サポートセンターでは、学校への訪問支援、ホームページや広報紙による学校図書館の活用に役立つ情報提供及び人材・情報ネットワークの構築を進めるとともに、市立図書館との連携を強化するなどの総合支援のさらなる充実を図っていきます。

要望5 その他「調べる学習コンクール」「調べる学習体験講座」

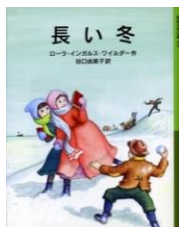
回答 学校教育部と図書館部が調整し、今年度も引き続き実施していきます。

要望書は 2019.2.20 郵送、2019.5.28 に回答をいただきました。



ローラ・インガルス・ワイルダー作「恩地三保子訳」ガス・ウィリアムズ画

私を通った渋谷区の小学校の図書室はコの字型に並んだ校舎の西側の二階の端でした。入ると正面に青と臙脂の織り模様装丁の岩波少年文庫がありました。『長い冬』（ローラ・インガルス・ワイルダー作／谷口由美子訳）もそこに並んでいました。猛吹雪の中、お父さんの活躍が印象的でした。ローラのシリーズは、日本では『長い冬』が最初に刊行されたという事は、長じて知りました。



テレビの「大草原の小さな家」の放映もあり、娘がローラのシリーズを読み始めたのは四年生の時です。学校の図書室で借りてきて、全てのシリーズを繰り返し読んでいました。今の娘の一部はワイルダーが作ったと言ってもいいぐらいです。四年生の孫もそんな思いの本に出合えると良いな、と思っています。

(J・S)



～本・子ども・学校図書館～ 会員のおびやき



ある日の読み聞かせ風景
6月某日 5年生のあるクラスに「プラスチックトレイ」を持って行きました。



1冊目は『ごみ水路水族館』（武田晋一文・絵／ボコヤマクリタ写真／偕成社）。汚れた水の中で逞しく生きる生きもの達の写真は、とても綺麗に汚れた水路を映しています。途中、絵で外来種と在来種の事にも触れています。「生きものたちと人間が仲良く暮らすには、どうすればよいのか考え続けよう。」と著者はいいいます。続いて『ゴミにすむ魚たち』（講談社）。海の底にある、人間が作り出した決して自然には還らないゴミの中に住む魚たちの写真が続き、途中からそのゴミに苦しめられている魚たちの写真に変わります。5年生の6月ではまだ少し難しかったかもしれませんが、でも「海洋プラスチック問題」は、今世界で話し合われている事です。今自分に出来る事はないかな？と考えてほしいです。(M・T)

令和元年度 本会の活動予定

知識の本で読書会

『読もう！楽しもう！ 知識のえほん』

6月5日(水)・7月3日(水)

いずれも午後1時30分～ 於・八王子市中央図書館

(終了しました。)

広瀬恒子さん講演会

「子どもの本を読みましょう」

12月1日(日) 午後1時30分～

於・八王子市中央図書館

YA読書会

令和2年 1月26日(日)・2月9日(日)

いずれも午後2時～4時 会場未定

本会ホームページやチラシでご確認ください。ご参加お待ちしております。

関連団体

八王子子ども文庫連絡協議会主催

小宮由さん講演会

「子どもの本の豊かな世界」

7月21日(日) 10時～12時

八王子市中央図書館

問合せ・八王子子ども文庫連絡会



会員募集

正会員：…本会のすべての活動に参加できます。

入会金5000円、年会費10000円です。

賛助会員：…広報紙やイベントの情報をお届けします。

本会の活動を支援してくださる個人、団体の

方。年会費一口10000円です。

☆☆編集後記☆☆

小学校では英語や道徳が教科として入り、授業時間の確保が難しいそうです。朝の読み聞かせも時間が短くなったりしていると聞きます。学校図書館で読書をする時間が低学年しか取れないとしたら、なおさら調べ学習など読書以外の学校図書館利用を推進してほしいものです。

(〇)